

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第2期岡崎市まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県岡崎市

### 3 地域再生計画の区域

愛知県岡崎市の全域

### 4 地域再生計画の目標

岡崎市は愛知県中央部に位置し、本市を含む周辺9市1町は、歴史的・経済的な背景から一体となって西三河を形成している。

市域の北から南に矢作川が、東から西に乙川が流れており、その水源として市域の約6割にのぼる森林を有し、豊かな水環境と自然環境に恵まれた地である。

総面積387.20k㎡は、豊田市、新城市に次いで県内3番目の規模であり、市街化区域面積59.56k㎡は、名古屋市、豊橋市に次いで県内3番目の規模である。

交通は広域利便性に優れ、JR東海道本線、名鉄名古屋本線及び愛知環状鉄道線の鉄道網や、東名高速道路、新東名高速道路、国道1号、国道248号、国道473号の幹線道路網により、周辺都市や名古屋市との連携が図られている。

岡崎市において、製造業は市内総生産で最も高い構成比を占める基幹産業である。市区町村別の製造品出荷額は全国13位を誇り、全国有数のものづくり都市として知られ、その歴史は深く、近代の繊維産業から現在の自動車関連産業へと産業構造を変化させながら、地域の経済発展に重要な役割を果たしてきた。

岡崎市の2024年3月末日時点人口は383,141人である。人口は1958年から増加傾向にあり、2010年に一時的に減少したものの、その後再び増加に転じた。しかし、2019年の387,887人をピークに、以後5年連続で減少しており、現在は、ほぼ転入・転出が均衡しているが、経済不況時には転出が多くなる傾向があり、社会経済情勢の変化が人口動向に大きな影響を与えている。

2050年の本市の総人口は2020年から約2万3千人減少し約35万5千人となり、年齢構成は大きく変化する。2020年の65歳以上の人口は約9万人（23.7%）であるが、2050年は約12万人（33.7%）とさらに高齢化が進む。2020年の生産年齢人口は約23万5千人（62.0%）であるが、2050年は約19万4千人（54.7%）と働く世代が全世代の半数近くまで減少すると想定している。また、年少人口についても2020年は約5万4千人（14.3%）であるが、2050年は約4万1千人（11.6%）と、少子化も進展していく。

出生・死亡については2020年以降、死亡者数が出生者数をやや上回る自然減が続いており、岡崎市の人口減少・高齢化は全国平均と比較して緩やかではあるものの、少子高齢化の影響で、今後は自然減の拡大が続くと見込まれ、2055年には人口が34.6万人まで減少し、高齢化率は34.5%に上昇、生産年齢人口は全国平均を上回るものの、現在より約22%（約52,000人）減少する見込みである。

製造業が集積する岡崎市では、これまで就職を契機とした若年男性の転入が多く、若年女性も転入超過ではあったものの、男性に比べると少ない傾向であったが、2024年の社会動態では、男女ともに社会減少に転じている。特に、2014年と2024年を比較すると、25～34歳の若年層で転出傾向が顕著であり、若者や女性に選ばれるまちづくりが一層求められている。また、岡崎市は世界的な製造業拠点である三河地域で中心的な役割を担い、これまで発展を続けてきたが、今後は社会のあらゆる分野で担い手不足が生じ、地域コミュニティや市内経済の活力低下、社会保障経費の増加に伴う市民サービスの維持などが課題となる。また、地震や激甚化する風水害などの自然災害への対応、都市インフラの老朽化に伴う維持管理・更新も喫緊の課題である。

このような将来の見通し、課題に対応するため、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成に向け取り組みを進めていく。

- 基本目標① 未来のまちづくり
- 基本目標② 未来のひとづくり
- 基本目標③ 未来のしごとづくり
- 基本目標④ 未来のパートナーシップづくり

### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	市内着工建築物 工事費	927億円(2024年)	850億円 (2021年～2030年平均)	基本目標①
ア	交通利便性の高 いまち	11段階平均肯定度5.1 (2024年スコア)	11段階平均肯定度6.0 (2030年度到達スコア)	基本目標①
ア	市内主要駅の乗 客数	1,404万人(2023年)	1,404万人(2030年)	基本目標①
ア	防災関連の取組 満足度	11段階平均肯定度5.5 (2024年スコア)	11段階平均肯定度6.0 (2030年度到達スコア)	基本目標①
イ	社会増減	138人転出超過 (2024年)	250人転入超過 (2021年～2030年平均)	基本目標②
イ	住みやすいまち	11段階平均肯定度5.7 (2024年スコア)	11段階平均肯定度6.5 (2030年度到達スコア)	基本目標②
イ	合計特殊出生率	1.33(2023年)	1.70 (2021年～2030年平均)	基本目標②
イ	子育てしやすい まち	11段階平均肯定度5.2 (2024年スコア)	11段階平均肯定度6.5 (2030年度到達スコア)	基本目標②
イ	待機児童数	16人(2025年)	0人(2030年)	基本目標②
ウ	製造品出荷額等	1兆8,297億円 (2020年)	3.5兆円水準 (2030年までに)	基本目標③
ウ	小売業商品販売 額	3,882億円(2021年)	4,500億円水準 (2030年までに)	基本目標③
ウ	商工業が盛んな まち	11段階平均肯定度5.3 (2024年スコア)	11段階平均肯定度6.5 (2030年度到達スコア)	基本目標③
ウ	観光施設入込客 数	345万人(2024年)	425万人(2030年)	基本目標③

エ	プラットフォーム活用で解決した課題数	1件(2023年度)	3件(年平均)	基本目標④
エ	市政総合満足度	11段階平均肯定度5.2 (2024年スコア)	11段階平均肯定度6.5 (2030年度到達スコア)	基本目標④

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

岡崎市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 未来のまちづくり事業

イ 未来のひとづくり事業

ウ 未来のしごとづくり事業

エ 未来のパートナーシップづくり事業

#### ② 事業の内容

ア 未来のまちづくり事業

暮らしを支える都市づくり、暮らしを守る強靱な都市づくり、持続可能な循環型の都市づくりの3つの柱をもとに、持続可能な集約連携型都市を実現する。

【具体的な事業】

- ・東岡崎駅周辺地区整備推進業務
- ・交通政策推進
- ・QURUWA 戦略推進 等

イ 未来のひとづくり事業

多様な主体が協働・活躍できる社会づくり、健康で生きがいをもって

活躍できる社会づくり、女性や子どもがいきいきと輝ける社会づくり、誰もが学び活躍できる社会づくりの4つの柱をもとに、誰もが役割を持つ地域共生社会を実現する。

【具体的な事業】

- ・地域社会 DX
- ・歴史まちづくり
- ・子ども・若者育成支援 等

**ウ 未来のしごとづくり事業**

商業と観光が成長産業となる地域経済づくり、ものづくりが柱であり続ける地域経済づくりの2つの柱をもとに、付加価値創出型の「稼ぐ」地域経済を実現する。

【具体的な事業】

- ・ゼロカーボンシティ推進
- ・中山間地域活性化
- ・スポーツツーリズム推進 等

**エ 未来のパートナーシップづくり事業**

全国的に先進性を有する公民連携、都市経営のスマート化、広域防災など共通課題の解決に向けた取組をきっかけとして、周辺都市との連携体制構築を図り、中枢中核都市として周辺都市を含めた地域全体の支えとなるまちを実現する。

【具体的な事業】

- ・シティプロモーション推進
- ・公民連携した社会課題解決の推進等

※なお、詳細は第7次岡崎市総合計画(後期計画)のとおり。

**③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標(KPI)）**

4の【数値目標】に同じ。

**④ 寄附の金額の目安**

10,000,000 千円（2026年度～2030年度累計）

**⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）**

毎年度9月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針

を決定する。検証後、速やかに本市公式 WEB サイト上で公表する。

**⑥ 事業実施期間**

2026 年 4 月 1 日から 2031 年 3 月 31 日まで

**6 計画期間**

2026 年 4 月 1 日から 2031 年 3 月 31 日まで